

## 退職記念号発刊にあたって

本学教授大野實雄，柳瀬良幹両先生は去る昭和56年3月末日，定年退職されました。ここに法学部教授会決議をもって退職記念号を発刊いたします。ささやかながら同誌からわれわれの心からの愛惜の意をおくみとり頂ければ幸いです。

大野先生は明治38年長野県に出生，昭和5年早稲田大学法学部卒業後，裁判官を経て昭和23年早稲田大学法学部教授に就任，同51年3月定年退職後，本学法学部ならびに大学院法学研究科教授として赴任されました。先生は『労働株の理論』（昭和25年），『企業法の諸問題』（昭和45年）のほか多数の著書論文を有するのみならず，内外の公職を歴任されて，斯学の権威として令名つとに高かったことは改めていうまでもありません。にもかかわらず，本学赴任後も少しも高ぶらずつねに温容をもって私達に接して下さいました。教職員一同の敬慕するゆえんであります。

一方，柳瀬先生は明治38年和歌山県にて出生，東京大学法学部卒業後同学部助手を経て昭和16年東北帝国大学法文学部教授に就任，昭和44年退官。その後上智大学を経て昭和51年4月本学教授（学部・大学院併任）として赴任されました。先生は『行政法の基礎理論(1)(2)』（昭和15～16年），『行政法教科書三訂版』（昭和44年）ほか多数の著作を擁し斯学の権威であられたことは歴任された学内外の要職からも容易に推察できるところであります。にもかかわらず本学赴任後もいささかも謙虚な態度をくずすことなく，ときに巧まざるユーモアをもって私達に接して下さいました。大野先生同様，私達の敬慕するゆえんであります。

両先生の御助力・御指導・御鞭撻なしには，本学大学院法学研究科が昭和51年に発足し，間もなく完成を見るといった状況に立ち至れたとはとうてい考えられません。ここに御退職にあたり，改めて厚く御礼申し上げます。どうかいつまでもお元気で斯学の発展のためにお尽力下さるようお願いして記念号発刊のことばのむすびといたします。

1981年6月吉日

法学部長 庭山英雄